

SK水性ホワイトシーラー

特 長

SK水性ホワイトシーラーは、アクリル樹脂エマルジョンを結合材として用いた白色タイプの水性下塗材です。

1. TVOC(総揮発性有機化合物)1%未満かつホルムアルデヒド放散等級F☆☆☆☆と環境汚染物質をほとんど含まない安全配慮設計です。
2. 白色タイプですので、上塗材の隠ぺい性を高めます。
3. 下地及び上塗材との密着性が良好で、安定したシール効果を発揮します。
4. 水性ですので、屋内外で安心して使用できます。

用 途

■:適用上塗材 ●:適用下地/基材

- 各種仕上塗材の下塗り※、EP系の下塗り
※弾性系、無機高分子系は使用不可
- 各種新築下地の下塗り
コンクリート、セメントモルタル、せっこうボードなど

荷 姿

SK水性ホワイトシーラー 18kg石油缶（標準塗坪：138～180㎡/缶）

危険情報と安全対策

製品の取り扱い、それぞれの安全データシート（SDS）に従ってください。
ご使用の際には、安全管理に注意して作業を行ってください。

標準施工仕様

(23℃)

材 料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗回数	間隔時間 (hr)		備 考
				工程内	工程間	
SK水性ホワイトシーラー	100	0.10～ 0.13	1	—	2以上	ローラー、刷毛 エアレススプレーガン 吐出量：600～1000ml/分 パターン幅：25～30cm
清 水	0～20	—				

※1. 調合は、所定の割合を厳守してください。

※2. 「所要量」は塗装条件等により異なりますが、被塗装面に付着させる塗料の「標準塗付け量」は、SK水性ホワイトシーラーで「0.08～0.10kg/m²」となります。各材料の使用数量などを算出する際には、「所要量」を基準としてください。

性能試験成績表

JIS K 5663 附属書(規定) 合成樹脂エマルジョンシーラー による物性結果

項 目	結 果	品 質
容器の中での状態	合 格	かき混ぜたとき、堅い塊がなくて一様になるものとする。
塗 装 作 業 性	合 格	はけ塗りに支障があってはならない。
塗 膜 の 外 観	合 格	塗膜の外観が正常であるものとする。
乾燥時間(表面乾燥)	合 格	2時間以内
低 温 安 定 性	合 格	－5℃に冷やしたとき変質してはならない。
低 温 造 膜 性	合 格	5℃で塗膜形成に異常があってはならない。
上 塗 り 適 合 性	合 格	上塗りに支障があってはならない。
耐 水 性	合 格	水に96時間浸したとき異常があってはならない。
耐 アルカリ性	合 格	水酸化カルシウムの飽和溶液に48時間浸したとき異常があってはならない。

注 意 点

製品の取り扱い、それぞれの安全データシート (SDS) に従ってください。

本パンフレットでは、一般的な施工仕様を記載しています。下地の種類及び状況、用途などにより仕様が変わることがあります。詳しくは、最寄りの各営業所にお問い合わせいただくか、それぞれの施工要領書を別途ご参照ください。

- ☐ 光触媒コーティング、無機系コーティングなどが施されたサイディングボード面、無塗装板などには、下塗材として水性ハイブリッドシーラー、★エスケーハイブリッドシーラー-EPOをご使用ください。
- ☐ 経年劣化したサイディングボード面への塗装は、表面劣化部分から剥離する場合があります。試験施工を行って付着性を確認の上、本施工に入ってください。
- ☐ 光沢が残っているなど劣化していない塗膜に塗装する場合は、目荒しを行ってください。
- ☐ ALCパネル、多孔質下地、粗面、その他、下地に問題がある場合には、カケンフィラー（粉体/20kg袋、混和液/10kg石油缶）、またはミラクフアンドKC-1000（粉体/20kg袋、混和液/5kgポリ容器）などで下地調整を行ってください。なお、改装工事には、ミラクフアンド各種をご使用ください。
- ☐ 下地がコンクリートの場合には、付着物などを除去し、下地をよく乾燥させ、含水率10%以下・pH10以下としてください。下地が雨や結露などで濡れている場合は、十分に乾燥を行ってください。
- ☐ やに・あくが付着している場合は、中性洗剤など（やに・あくが著しい場合は、アルカリ性洗剤など）で拭き取った後、予めSK水性ヤニ止めシーラー（15kg石油缶）を塗付してください。
- ☐ 二液反応硬化タイプの材料は、主剤と硬化剤を指定の比率で調合し、電動ミキサーで攪拌混合してください。特に小分けでご利用の場合は、計量器にて計量を行ってください。混合後の材料は、缶に表示の可使用時間以内に使い切ってください。また、可使用時間は温度、希釈などの条件によって変わりますので、混合後はなるべく早く使い切ってください。
- ☐ 既調合タイプの材料を希釈したり、他の材料と混合したりすると、性能低下につながりますので、絶対に避けてください。
- ☐ 既存塗膜の剥離箇所は、既存のパターンに合うように既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。
- ☐ 改装工事に溶剤形の材料をご使用の場合、溶剤などの影響により旧塗膜を侵し、膨れ・ちぢみなどの異状が発生することがあります。試し塗りにより確認の上、本施工に入ってください。
- ☐ かび、藻が付着している場合は、「SKKかび除去剤#5（塩素系）」にて拭き取るなど、適切な下地処理をしてから塗装してください。
- ☐ 所要量は被塗物の形状、素地の状態、塗装方法、気象条件、希釈率等の各種条件により増減します。
- ☐ 塗り重ね時間は環境（温度、湿度、換気、風通しやすさ）や膜厚によってかわります。
- ☐ 低温又は高湿度時には、乾燥が遅くなります。風通をよくし、十分に乾燥養生を行ってください。
- ☐ 補修塗りが必要な場合がありますので、補修用に使用塗料の控えを必ずとっておき、同一ロット、同一塗装方法で補修塗装をしてください。
- ☐ 間隙が広いなど、大きな動きが予想されるシーリング打設部への塗装は、塗膜がひび割れる可能性がありますので、なるべく避けてください。
- ☐ シーリング材の上へ施工する場合、シーリング材の種類や材齢により塗膜が密着しないことがあります。詳しくは、最寄りの各営業所にお問い合わせください。
- ☐ 陶磁器タイル洗浄用の酸が塗装面に付着すると、変色や溶解などの異状を生じることがありますので、これを防止するため、予め塗装面の養生を行ってください。
- ☐ 基材の洗浄に薬剤を用いる場合、薬剤洗浄後の水洗工程を入念に行ってください。薬剤が被塗面に残在したまま塗装すると塗膜の膨れ、剥がれ、白化につながる場合があります。
- ☐ 溶剤形、弱溶剤形の下塗材は、ゴムやプラスチック等、可塑剤を含む部位に直接接触すると軟化や剥離を生じることがありますので、そのような場所への塗装は避けてください。また、これらの部位に塗膜が直接接触することのないようご注意ください。
- ☐ 塗膜の膨れ、剥がれ、白化、しみの発生につながる場合がありますので、著しく結露が生じるような場所での使用は避けてください。
- ☐ 強風時または降雨、降雪のおそれがある場合及び温度5℃以下、湿度85%以上の時は、原則的に施工を避けてください。施工が要求される場合は、採暖及び採暖のための養生により、雰囲気温度、被塗面温度を5℃以上にしてください。冬期においては、施工条件が特に厳しくなる場合があるため、事前に関係者と十分な打ち合わせを行ってください。
- ☐ 材料は使用前に内容物が均一になるように十分に攪拌し、開栓後は速やかに一度に使い切ってください。また材料を保管する場合は、無希釈の材料をしっかりと密栓してから直射日光を避けた冷暗所にて保管し、できるだけ早めに使い切ってください。
- ☐ 性能に支障をきたす可能性がありますので、当社指定以外の材料を混ぜないでください。
- ☐ 荷姿に記載の標準塗坪は一般的なものであり、下地の状態や環境などによる所要量の増減に応じて変わることがあります。ご了承ください。
- ☐ 各仕上塗材とのJIS表示における組み合わせについては、各仕上塗材のパンフレット等をご参照いただくか、最寄りの各営業所へお問い合わせください。

危険情報と安全対策

すべての安全注意を読み、理解するまで取り扱わないでください。

各種共通

- [応 急 処 置]
- ☐ 蒸気を吸入した場合は、空気の清浄な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させてください。その後、医師の診断を受けてください。
 - ☐ 誤飲した場合は、直ちに医師の診断を受け、無理に吐かせないでください。
 - ☐ 眼に入った場合は、清浄な水で十分洗い流し、痛みが残る場合は医師の診断を受けてください。
 - ☐ 皮膚に付着した場合は、付着した衣服等は直ちに脱ぎ、清浄な水で皮膚を洗ってください。炎症や刺激がある場合は医師の診断を受けてください。
- [廃 棄]
- ☐ 漏出した場合は、漏出物を速やかに回収してください。
 - ☐ 廃材、容器、養生材、ウエス等は、自分で破棄・焼却せず、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に処分を委託してください。
 - ☐ 容器に中身を残したまま廃棄したり、火気を当てたりしないでください。
 - ☐ 有害物質を含みますので、排水路・下水・河川への排出及び地下浸透をしないでください。
- [保管及び取り扱い]
- ☐ 容器を密封し、凍結・直射日光を避け、5～40℃の乾燥した換気の良い場所、及び部外者や子供が入りできない場所に一定の管理の出来る場所を定め、施錠して保管してください。
 - ☐ 缶の取手は手さげ専用です。ロープやフックで吊り下げると外れることがあり、危険です。（製品の種類によって異なる注意事項は、別途、種類別に記載してありますので、参照してください。）
- [安 全 衛 生]
- ☐ 製品の種類によって異なります。別途、種類別に記載してありますので、参照してください。また、安全データシート(SDS)もご参照ください。
- [施 工 後 の 注 意]
- ☐ 取り扱い後は、洗顔、手洗い及びうがいを十分に行ってください。
 - ☐ 本製品には揮発性の化学物質が含まれております。塗装直後の引渡し等において、化学物質過敏症やアレルギー体質の方への安全対策に十分留意してください。

溶剤形塗料

溶剤形塗料は特に下記の点にご注意ください。

1. 引火性可燃物ですので、火気厳禁です。
2. 有機溶剤中毒や皮膚障害を起こすおそれがあるため、取り扱い時は保護具を着用してください。
3. 業務用「塗料」ですので、本来の用途以外には使用しないでください。

※屋内作業等、使用環境によっては、特定化学物質障害予防規則、有機溶剤中毒予防規則等の規制を受ける場合があります。詳しくは別途、施工仕様書等をご確認ください。

- [保管及び取り扱い]
- ☐ 保管場所及び取り扱い場所とその周辺は、塗装中・乾燥中ともに熱／火花／裸火／高温体のような着火源を遠ざけ火気厳禁としてください。特に乾燥中は蒸発の面積が広がるため、短時間に多量の引火性の高い蒸気が発生しますので、注意してください。
 - ☐ 合成樹脂などの電気絶縁性の床での保管や取り扱いをしないでください。また、導電靴や帯電防止の衣服を着用してください。
 - ☐ ご使用の場合、使用機器（電気機器／換気装置／照明機器／工具等）は防爆型及び導電型のものを使用し、アースを取ってください。
- [安 全 衛 生]
- ☐ 消火には粉末、二酸化炭素、泡消火器または水を噴霧してください。棒状の水を直射すると飛散して危険です。
 - ☐ ご使用前には、製品容器に記載の注意事項をよくお読みください。特に、荷姿欄に★印のついている製品は溶剤形で引火性可燃物の為、火気厳禁です。
 - ☐ 揮発性の溶剤を含むため、皮膚に触れたり蒸気を吸入すると、皮膚障害や中毒を起こすおそれがありますから取り扱いには以下の注意事項を守ってください。
 - ① 取り扱い場所には局所排気装置を設けてください。
 - ② 容器から出し入れする時は、こぼれないようにしてください。
 - ③ 取り扱い中は皮膚に触れたり、蒸気やミストの吸入を避けてください。必要に応じ、防塵マスク、保護メガネ、不透性の保護手袋、前掛け等を着用し、また、顔・手・腕には保護クリームを塗って直接皮膚に触れないようにしてください。
 - ④ 作業衣などに付着した場合は、その汚れをよく落としてください。
 - ☐ 施工においては、溶剤成分が室内に流入しないように十分注意してください。

硬化剤

硬化剤は、特に下記の点にご注意ください。

1. 引火性可燃物ですので、火気厳禁です。
2. 有機溶剤中毒や皮膚障害を起こすおそれがあるため、取り扱い時は保護具を着用してください。
3. 業務用「塗料」ですので、本来の用途以外には使用しないでください。

※屋内作業等、使用環境によっては、特定化学物質障害予防規則、有機溶剤中毒予防規則等の規制を受ける場合があります。詳しくは別途、施工仕様書等をご確認ください。

- [保管及び取り扱い]
- ☐ 保管場所及び取り扱い場所とその周辺は、塗装中・乾燥中ともに熱／火花／裸火／高温体のような着火源を遠ざけ火気厳禁としてください。特に乾燥中は蒸発の面積が広がるため、短時間に多量の引火性の高い蒸気が発生しますので、注意してください。
 - ☐ 合成樹脂などの電気絶縁性の床での保管や取り扱いをしないでください。また、導電靴や帯電防止の衣服を着用してください。
 - ☐ ご使用の場合、使用機器（電気機器／換気装置／照明機器／工具等）は防爆型及び導電型のものを使用し、アースを取ってください。
 - ☐ 消火には粉末、二酸化炭素、泡消火器または水を噴霧してください。棒状の水を直射すると飛散して危険です。

- [安 全 衛 生]
- ☐ ご使用前には、製品容器に記載の注意事項をよくお読みください。特に、荷姿欄に★印のついている製品は溶剤形で引火性可燃物の為、火気厳禁です。
 - ☐ 揮発性の溶剤を含むため、皮膚に触れたり蒸気を吸入すると、皮膚障害や中毒を起こすおそれがありますから取り扱いには以下の注意事項を守ってください。
 - ① 取り扱い場所には局所排気装置を設けてください。
 - ② 容器から出し入れする時は、こぼれないようにしてください。
 - ③ 取り扱い中には皮膚に触れたり、蒸気ミストの吸入を避けてください。必要に応じ、防毒マスクまたは送気マスク、保護メガネ、不浸透性の保護手袋、前掛け等を着用し、また、顔・手・腕には保護クリームを塗って直接皮膚に触れないようにしてください。
 - ④ 皮膚に付着した場合は、速やかに大量の水で洗ってください。また、大量の蒸気を吸入した場合は、速やかに医師の診断を受けてください。
 - ⑤ 作業衣などに付着した場合は、その汚れをよく落としてください。
 - ⑥ 液がこぼれた場合は、中和剤を散布した後で処理してください。
 - ☐ 施工においては、溶剤成分が室内に流入しないように十分注意してください。

希 釈 用 溶 剤

希釈用溶剤は、特に下記の点にご注意ください。

1. 引火性可燃物ですので、火気厳禁です。
2. 有機溶剤中毒や皮膚障害を起こすおそれがあるため、取り扱い時は保護具を着用してください。
3. 業務用「塗料」ですので、本来の用途以外には使用しないでください。

※屋内作業等、使用環境によっては、特定化学物質障害予防規則、有機溶剤中毒予防規則等の規制を受ける場合があります。
詳しくは別途、施工仕様書等をご確認ください。

- [保管及び取り扱い]
- ☐ 保管場所及び取り扱い場所とその周辺は、塗装中・乾燥中ともに熱／火花／裸火／高温体のような着火源を遠ざけ火気厳禁としてください。特に乾燥中は蒸発の面積が広がるため、短時間に多量の引火性の高い蒸気が発生しますので、注意してください。
 - ☐ 合成樹脂などの電気絶縁性の床での保管や取り扱いをしないでください。また、導電靴や帯電防止の衣服を着用してください。
 - ☐ ご使用の場合、使用機器（電気機器／換気装置／照明機器／工具等）は防爆型及び導電型のものを使用し、アースを取ってください。
 - ☐ 消火には粉末、二酸化炭素、泡消火器または水を噴霧してください。棒状の水を直射すると飛散して危険です。
- [安 全 衛 生]
- ☐ ご使用前には、製品容器に記載の注意事項をよくお読みください。特に、荷姿欄に★印のついている製品は溶剤形で引火性可燃物の為、火気厳禁です。
 - ☐ 揮発性の溶剤を含むため、皮膚に触れたり蒸気を吸入すると、皮膚障害や中毒を起こすおそれがありますから取り扱いには以下の注意事項を守ってください。
 - ① 取り扱い場所には局所排気装置を設けてください。
 - ② 取り扱い中は皮膚に触れたり、蒸気ミストの吸入を避けてください。必要に応じ、防毒マスクまたは送気マスク、保護メガネ、不浸透性の保護手袋、前掛け等を着用し、また、顔・手・腕には保護クリームを塗って直接皮膚に触れないようにしてください。
 - ③ 容器から出し入れする時は、こぼれないようにしてください。
 - ☐ 施工においては、溶剤成分が室内に流入しないように十分注意してください。

水 性 塗 料

- [安 全 衛 生]
- ☐ ご使用前には、製品容器に記載の注意事項をよくお読みください。
 - ☐ 水性塗料（荷姿に★印のついていない製品）の取り扱いには以下の注意事項を守ってください。
 - ① 取り扱い場所は換気をしてください。
 - ② 取り扱い中には皮膚に触れたり、蒸気ミストの吸入を避けてください。必要に応じ、防毒マスクまたは送気マスク、保護メガネ、不浸透性の保護手袋、前掛け等を着用し、また、顔・手・腕には保護クリームを塗って直接皮膚に触れないようにしてください。